

第74回  
県展

新人賞ギャラリー  
飛躍の第一歩に

高知市高須の県立美術館と同市九反田の市文化プラザ「かるぽーと」で25日まで開催中の「第74回県展」。受賞歴のない30歳以下の若手作家を対象にした新人賞に、6部門6人が選ばれた（日本画、彫刻部門は該当者なし）。各部門の審査員は将来性を評価し、「受賞を励みにしてほしい」「制作を継続してレベルアップを」とエールを送っていた。若い感性あふれる作品と審査評を紹介する。



洋画「全種族和親条約後、食糧難が続きました」  
門脇まな(17)＝高知工業高3年

【評】イメージの自由さが群を抜いていた。物語を作って絵に作り変えている。絵の前で見る人がにやにやしながらいろいろ考えそうな作品。



写真「早く！」 渡辺奈月(17)＝高岡高2年

【評】馬に思い切り近接し、アップで表情を捉えた。シャッターチャンスを逃さず、ピントも目もしっかり合っている。高校生の作品の中で、明快な狙いがあった。

水満石穿

書道「水滴石穿」

岡村夏帆(23)＝高知市

【評】白を生かした作品で、生

き生きしている。立体感があり、うまさを見せるよりも意気盛んな若さが出ていて気持ちがいい。



豊嶋祐一郎(24)  
＝吾川郡いの町

【評】織部釉とも呼ばれる緑釉を使った作品。コンセプトが鑑賞者に伝わるようにタイトルも大切に。



先端美術「衣替え」

島内由良(18)＝高知工業高3年

【評】作品を見た時に驚きがあった。カーテンを使って、折り重なるキャベツの葉を表現している。見た目がきれいで、発想も面白い。県美術振興会奨励賞も受賞。



グラフィックデザイン

「私に一番似合う服」

由井 くらみ(18)＝安芸桜ヶ丘高3年

【評】描写力が素晴らしく、洗練されている。女性の目が非常に大きいのが、この絵ではそれが合っている。バラの飾りの赤でバランスを取っている。屋外で映えるだろう。

工芸「Tanboos Stampin' Gori」